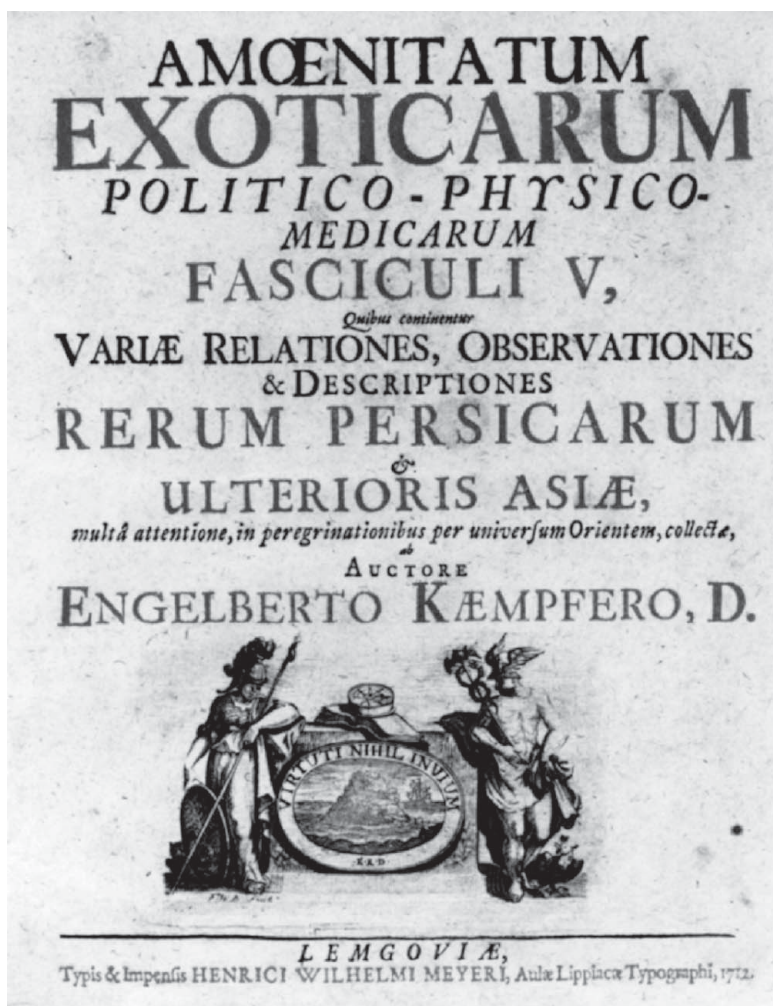


# <口絵>ケンペル『廻国奇観』標題紙（レムゴ、1712年刊）

著者	クレインス フレデリック
雑誌名	日文研
巻	49
発行年	2012-09-28
特集号タイトル	創立二十五周年記念特別号
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1368/00004141/">http://id.nii.ac.jp/1368/00004141/</a>



ケンペル『廻国奇観』標題紙（レムゴ、1712年刊）

ドイツのハンザ都市レムゴ生まれのケンペルは、スウェーデンの使節団員としてペルシア帝国に2年ほど滞在した。その後、東インド会社に外科医として就職し、しばらくインドネシアに滞在した後に、日本へと渡り、2回江戸参府に同行した。帰国後、ケンペルはフリードリッヒ・アドルフ伯爵の侍医となっているが、アジア滞在中に取ったノートをもとにまとめる時間はあまりなかったようである。唯一、生前に出版された本が『廻国奇観』である。本書は、主にペルシアについての研究をまとめたものであるが、日本については、和紙の生産や茶、鍼灸および、凡そ300種類の植物についての図と記述があり、これら日本の植物の多くを初めてヨーロッパに紹介している。

日文研所蔵外書（解説：フレデリック・クレインス准教授）